

世界遺産
「紀伊山地の霊場と参詣道」
追加登録 (2016年10月)

ダブル

W世界遺産

世界農業遺産
「みなべ・田辺の梅システム」
認定 (2015年12月)

W世界遺産のまち 田辺

和歌山県 田辺市



守り伝えたい、
かけがえのない
人類共通の宝

世界遺産とは

人類が共有すべき普遍的価値のある文化遺産や自然遺産を後世に継承していくことを目的に、1972年のユネスコの総会で「世界遺産条約」が採択されました。世界遺産とは、この条約に基づいて世界遺産リストに記載された物件をいいます。

日本にも残すべき人類の宝、世界文化遺産や世界自然遺産が多数あります。2004年には、紀伊山地に点在する「熊野三山」、「高野山」、「吉野・大峯」の三つの霊場とそこに至る参詣道で構成された「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録されました。さらに、2016年10月の第40回ユネスコ世界遺産委員会において、和歌山県内で22カ所の資産が同遺産に追加登録され、田辺市内では、**間雞神社**と熊野古道のうち未登録だった**長尾坂**、**潮見峠越**、**北郡越**、**赤木越**が新たに世界遺産となりました。これを機会に熊野古道を訪ねてみませんか。

田辺市街地エリアは昔から熊野の入り口として、口熊野と呼ばれ、本宮エリアは奥熊野と呼ばれてきました。口熊野から奥熊野へ。すべてを受け入れ、すべてを救う熊野の神々の地は、豊かな自然とのどかな里山が織りなす癒しの風景に満ちています。

その地を訪れ、その地を知ることこそ、人類が伝えてきた遺産を後世にパトタッチする第一歩となるでしょう。

杉木の杉



間雞神社



長尾坂



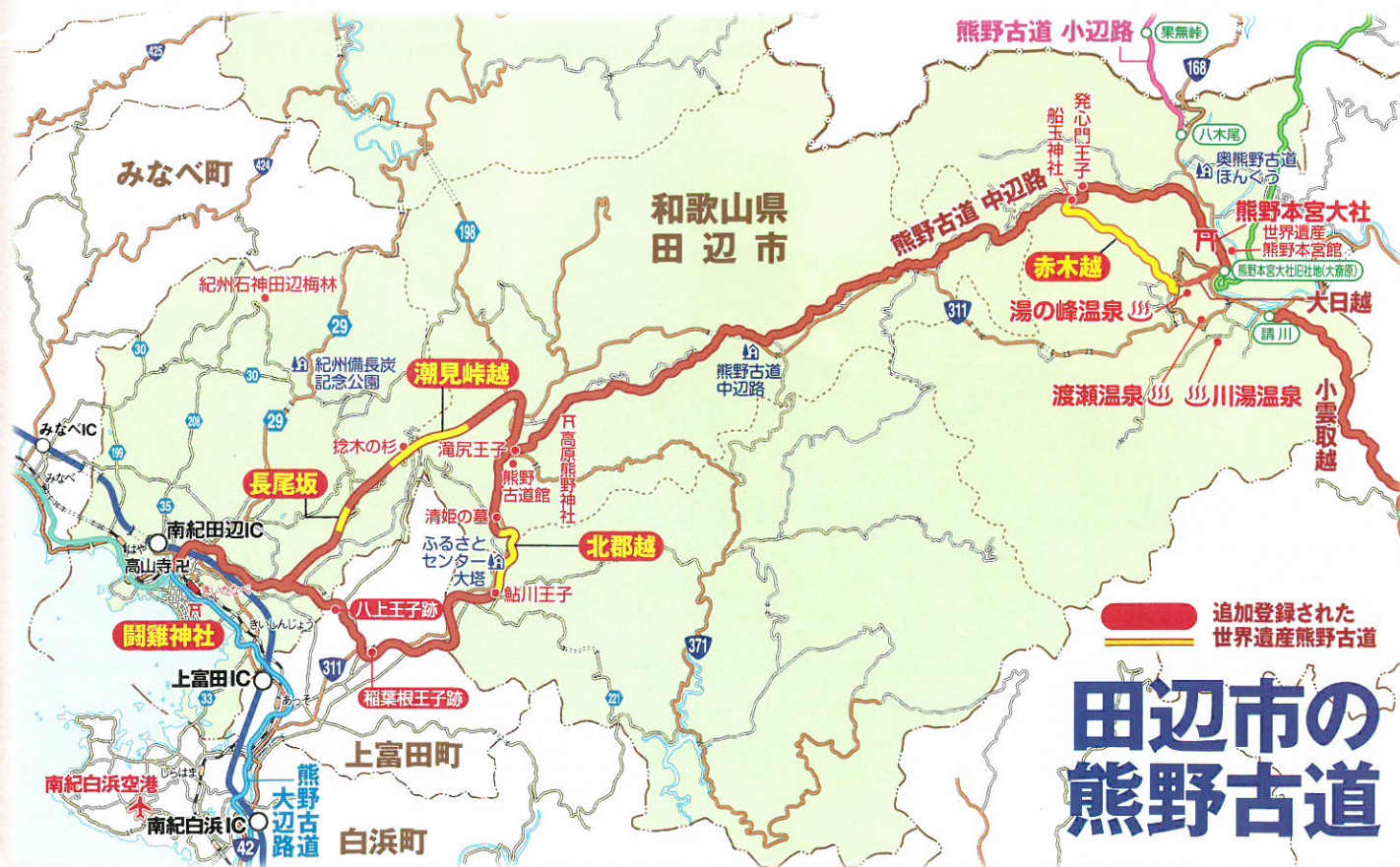
潮見峠越



北郡越



赤木越



田辺市の
熊野古道

世界農業遺産

「みなべ・田辺の梅システム」

みなべ・田辺地方は、日本一の梅の産地です。

良質な梅を持続的に産出できるのは、長年工夫を重ねた梅の生産システムの賜物です。2015年12月には、「みなべ・田辺の梅システム」として世界農業遺産に認定されました。

世界農業遺産とは

世界農業遺産（正式には世界重要農業遺産システム＝GIAHS）は、2002年に国際連合食糧農業機関（FAO）が開始したものです。農業の原点を再確認することを基本理念に、次世代に受け継ぐべき伝統的な農業（林業・水産業を含む）や農法、それによって育まれた農村文化、農村景観、そしてそれを取り巻く生物の多様性などの保全と活用を目的としています。農業を取り巻く仕組み全体で伝統的農業を守りつつ、持続的な活用を図るため、世界農業遺産は「地域システム」として認定されます。開始以来認定されたものは、ペルーの「アンデス農業」、中国雲南省の「ハニ族の棚田」（世界文化遺産にも認定）、日本では石川県の「能登の里山里海」、新潟県の「トキと共生する佐渡の里山」など、世界でわずか15カ国36地域のみです。日本では、「みなべ・田辺の梅システム」や上記2カ所を合せ、8地域が認定されています。



紀州石神田辺梅林

紀州石神田辺梅林は、「みなべ・田辺の梅システム」を体感できるシンボリックな場所です。梅林としては近畿屈指の標高300mを誇り、広大な梅林は「一目30万本」と謳われています。遊歩道を辿り、標高400mの「大蛇峰展望台」に登れば、すり鉢状の梅畑や里山の風景の向こうに太平洋を見渡す雄大な風景が広がります。石神地域では、江戸時代から梅栽培が行われていましたが、明治22年（1889）にこの地を襲った豪雨により、大蛇峰はまるで二つに割れたような大崩落を起こしました。その後石神地域の人々の努力もあり、崩落した山肌に植えた梅を観光向けの梅林として活用することで、その名が県内外に知られるようになりました。梅とともに生きてきた石神地域の人々が丹精込めて守り育ててきた梅林の美しさに触れる旅は、心のリフレッシュに最適です。



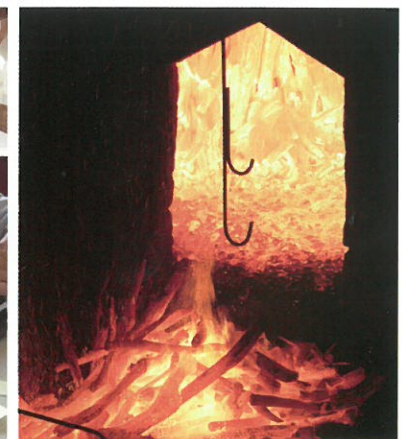
開園期間：2月初旬～3月初旬
入園料：無料
駐車場：約80台
アクセス：南紀田辺ICから車で約30分
JR紀伊田辺駅から車で約30分
問合せ：0739-26-9929
（田辺市観光振興課）

みなべ・田辺の梅システムとは

早春のみなべ・田辺地方は梅の香りに包まれます。里山の斜面一面を埋める梅林は、この地方が誇る農業景観でもあります。みなべ・田辺地方で梅の栽培が始まったのは、江戸時代といわれています。紀州田辺領ではやせ地を免租地にしたため、人々は養分に乏しく、礫質で崩れやすい斜面を活用して、薪炭林を残しながら梅林を配置しました。薪炭林を残すことにより養われた水源は、梅林だけでなく里地の水田なども潤しました。また、薪炭林は斜面の崩落を防ぐだけでなく、そこに棲むニホンミツバチは梅の受粉に利用されました。梅の栽培を中心に、薪炭林のウバメガシを活用した製炭など地域資源を活用した農業は、400年にわたり生活を支えてきたのです。長い年月をかけて育まれた梅システムは、梅の優良品種の育成を促し、梅干しをはじめとする梅加工品の技術も発展させてきました。今では、観梅だけでなく、体験農業や農家民泊も人気のプログラムとなっています。自然豊かな梅の郷を訪ね世界的にも重要で貴重な梅システムを満喫してください。

道の駅 紀州備長炭記念公園

紀州備長炭発祥の地といわれる田辺市秋津川にある道の駅です。公園内にある「紀州備長炭発見館」には、木炭の歴史や文化、種類、用途などがわかりやすく展示されています。炭の窯出し実演も行われており、タイミングが良ければ迫力ある職人の技を見ることができます。紀州備長炭は、安定した火力の炭の最高級品ですが、消臭効果や除湿効果など、さまざまな用途にも利用されています。また、物産店では、紀州備長炭の製品を買うこともできるほか、手ぶらで楽しめるバーベキュー施設や備長炭を使った風鈴づくり、梅を使ったジュースづくりの体験コーナーもあります。



開館時間：物産店・発見館 9:00～17:00（12～3月は16:00まで）
喫茶 9:00～16:00（12～3月は15:30まで）
※バーベキュー・風鈴づくり・梅ジュースづくり体験は要予約
休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）、12月31日～1月2日
駐車場：普通車17台、大型車3台
アクセス：南紀田辺ICから車で約20分／JR紀伊田辺駅から車で約20分
問合せ：0739-36-0226

熊野古道「中辺路・大辺路」の玄関口——

闘雞神社

創建は5世紀に遡ると伝わります。白河法皇の時代に熊野三所権現を勧請し、「権現さん」とも呼ばれます。熊野三山の別宮的存在で、熊野参詣の折には闘雞神社に参拝して心願成就を祈願したといひます。また、この神社に祈願して、三山参詣に替えたという伝承もあります。



境内の一角には鶏が闘う様子を再現した、湛増とその息子とされる弁慶の像が立っています

闘雞神社は田辺市の中心部にあります。境内には樹齢1200年という大楠がそびえ、社殿6棟が横一列に並んでいます。闘雞神社の名は、武蔵坊弁慶の父とも伝わる熊野別当湛増が、源平の壇ノ浦の戦いでいずれに味方するかを決めかね、神前で紅白の鶏を闘わせ、神意を占ったことによるとされます。白の鶏が勝ち、源氏に味方することになった湛増は、熊野水軍を率いて壇ノ浦に向かいました。この由来から勝運の神様としても信仰されています。神社には、源義経が奉納したという笛(銘白竜)、弁慶産湯の釜、湛増の鉄烏帽子や鉄扇などの宝物も残ります。また、社殿背後の飯庵山は、紀州が生んだ知の巨人、世界的博物学者の南方熊楠(1867~1941)が、熊野植物研究の拠点にしたことでも知られます。



ACCESS



JR 紀伊田辺駅から
徒歩約5分

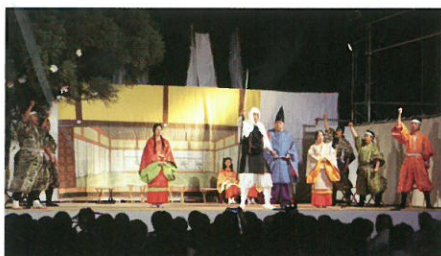
イベント情報



田辺祭●7月24・25日

闘雞神社の例大祭であり「紀州三大祭」の一つとしても知られています。「お笠」と呼ばれる山車の上屋には、ご神体となる人形や縁起物、下屋には断方の子どもや笛吹き衆が乗り、町内を曳き廻ります。

お問合せ: 0739-22-0155 (闘雞神社)



弁慶まつり●10月初旬

源平合戦期に弁慶と湛増を中心に繰り広げられた熊野水軍のドラマを壮大な時代絵巻として再現。翌日には、弁慶グタ踊りや弁慶よさこい踊り、弁慶鬼若太鼓などがにぎやかに行われます。

お問合せ: 0739-22-5064 (弁慶まつり実行委員会)



弁慶市●毎月第3日曜日

闘雞神社馬場で開催される朝市です。地元産品や周辺町村の産品などを始め掘り出し物が盛りだくさん。近隣だけでなく遠方からも買い物客や観光客が訪れ賑わいます。

お問合せ: 0739-25-8230 (南紀みらい株式会社)



近世の石畳道と紀伊水道を望む峠

捻木峠からの眺望

捻木峠から潮見峠に向かう古道



長尾坂の石仏



役行者像



捻木の杉と石畳



付近に駐車場なし



JR紀伊田辺駅から長尾坂登り口まで
タクシーで約20分、又はバス※(長野
線・尾野原口)で約35分
※週3日(月水金)のみ運行

步行時間

- 長尾坂登り口～潮見峠
約2時間10分(6.5km)
- 下三栖バス停～鍛冶屋川口バス停
約4時間20分(14.4km)



住吉神社



庚申塔



古道から望む富田川

北郡越

「熊野古道中辺路」のうち、鮎川から富田川沿いに現在の中辺路町北郡を経て、滝尻王子に至る古道です。10世紀前半から13世紀にかけての皇族・貴族の参詣には頻繁に使われましたが、15世紀以降は潮見峠越が主経路となり、江戸時代にはすでに「古道」と呼ばれていました。



清姫の墓

みそぎの川・富田川沿いに延びる古道

国道沿いに石碑のみを残す、鮎川王子からスタートします。鮎川新橋を渡り、富田川左岸の道を北へ向かいます。富田川はかつて熊野詣の人々が水垢離した川で岩田川とも呼ばれていました。道沿いには、庚申塔や道祖神など江戸時代の石造物が多く残り、石畳の痕跡を留める道もあります。富田川を離れて山中を進み、峠からは富田川を眼下にしながら北郡集落へと下ります。北郡橋から富田川右岸へと渡ると、道沿いに『安珍清姫』物語の主人公清姫の墓と伝わる石塔が立っています。さらに進むと、熊野の聖域の入り口とされる滝尻王子に着きます。



道祖神と庚申塔



北郡越の道



「湯之峯道」と呼ばれた 尾根道の古道

赤木越

三越峠から尾根道を辿って湯の峰温泉に至る古道です。古代や中世には、熊野本宮大社に参拝したあと湯の峰温泉に入湯するのが通例でしたが、近世になって湯垢離をしてから熊野本宮大社に参拝するのが一般化すると、赤木越が頻繁に使われるようになりました。

弘法大師を祀る祠

熊野本宮大社の神域の入り口とされる発心門王子を出発し、まず熊野本宮大社の奥の宮にあたるといわれる船玉神社を目指します。赤木越分岐は船玉神社のすぐそばです。ここからは、標高差150mを一気に登りますが、あとは山々を見晴らす尾根筋や尾根頂上部をたどる、比較的アップダウンのゆるやかで快適な道が続きます。道の周囲をスギ・ヒノキやアカマツ・シイ・カシ林が包み、一遍上人にまつわる伝説の鍋割地蔵や弘法大師を祀る祠、柿原茶屋跡などがあり、往時を偲びながらの古道ウォークが楽しめます。地獄坂と呼ばれる急な石畳道を下ると一遍上人磨崖名号碑があり、湯の峰温泉は目の前です。



赤木越の道



磨崖名号碑



鍋割地蔵



柿原茶屋跡

弘法大師を祀る祠

古道から望む湯の峰温泉



追加登録された
世界遺産熊野古道

ACCESS

《紀伊田辺駅発》

1 JR 紀伊田辺駅 → 発心門王子 バスで約2時間
発心門王子 → 船玉神社 徒歩で約20分

2 JR 紀伊田辺駅 → 湯の峰温泉 バスで約1時間40分

《熊野本宮大社発》

1 本宮大社前 → 発心門王子 バスで約15分
発心門王子 → 船玉神社 徒歩で約20分

2 本宮大社前 → 湯の峰温泉 バスで約10~20分

交通のごあんない



◆JRで京都・大阪方面から紀伊田辺駅へ
JRきのくに線・特急で紀伊田辺駅へ



◆新宮・勝浦方面から紀伊田辺駅へ
JRきのくに線・特急で紀伊田辺駅へ



◆大阪から田辺市街行き高速バス
JR大阪駅・なんばOCAT 約3時間



◆近鉄大和八木駅から熊野本宮温泉郷へ



◆明光バス快速熊野古道号を利用

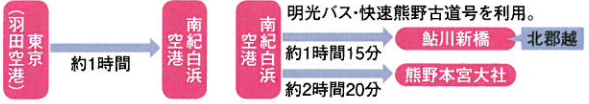


◆大阪方面より(約2時間20分)

松原JCT(大阪)から阪和自動車道経由で約130km。南紀田辺ICから一般道へ下りれば田辺市街地です。長尾坂、潮見峠越へは、南紀田辺ICからそのまま国道42号を「白浜」方面へ天王池交差点を左折、県道35号・216号を経て長野方面へ。北郡越・赤木越方面へは、上富田ICからそのまま国道42号を「白浜」方面へ向い、岩崎交差点を経て国道311号に入るのが分かりやすいルートです。



◆羽田から南紀白浜空港利用



◆田辺市街地へ



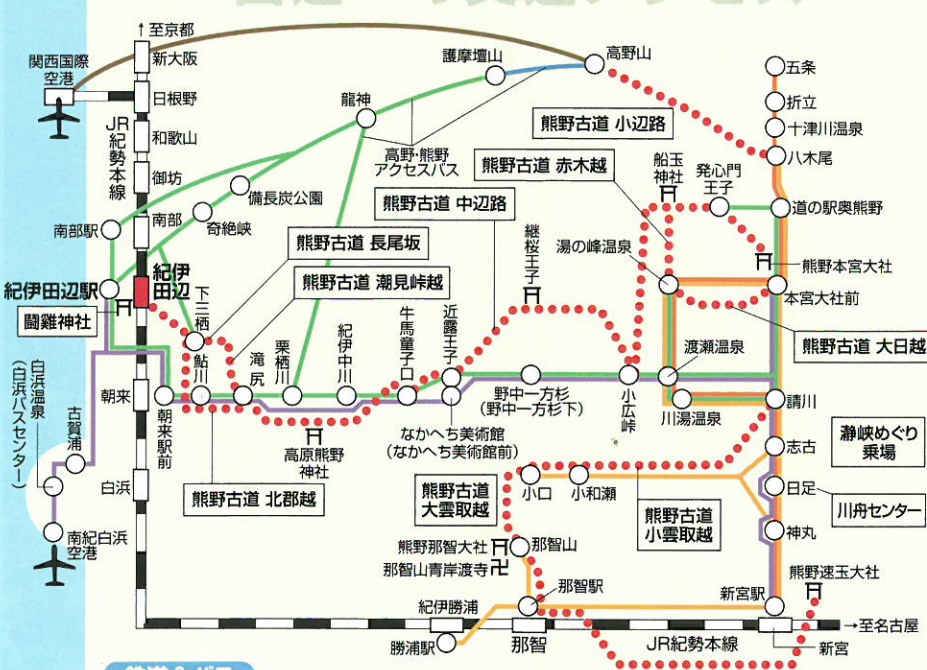
◆高野山から(約2時間30分)

高野龍神スカイラインから国道371号を通過して田辺市街まで約90km。
※冬季、高野龍神スカイラインはチェーン規制となります。

◆新宮・勝浦から(約2時間)

海岸沿いの国道42号・紀勢自動車道を通して、約2時間で田辺市街地へ。本宮経由(R168→R311)で約90km。新宮から田辺市街地への場合、本宮経由の方が近くなります。

田辺への交通アクセス



鉄道&バス

●●● 熊野古道	熊野交通	0735-22-5101
●●● JR西日本和歌山支社	奈良交通	0745-63-2501
●●● 龍神バス	明光バス快速熊野古道号	0739-42-3005
●●● 南海りんかんバス		
●●● リムジンバス(4/1~11/30)		WEB予約(WILLER TRAVEL)



■田辺地区の観光に関するお問い合わせ窓口

田辺市観光センター
0739-34-5599
田辺観光協会
0739-26-9929 <http://www.tanabe-kanko.jp/>

■龍神村の観光に関するお問い合わせ窓口

(公社)龍神観光協会
0739-78-2222 <http://www.ryujin-kanko.jp/>

■鮎川・富里・三川地区の観光に関するお問い合わせ窓口

大塔観光協会
0739-48-0301 <http://www.aikis.or.jp/~otomura/>

■中辺路町の観光に関するお問い合わせ窓口

中辺路町観光協会(熊野古道館)
0739-64-1470 <http://www.nakahechi.jp>

■本宮町の観光に関するお問い合わせ窓口

熊野本宮観光協会
0735-42-0735 <http://www.hongu.jp>

■田辺市全般の観光に関するお問い合わせ窓口

(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー
0739-26-9025 <http://www.tb-kumano.jp/>

田辺市観光振興課

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地
0739-26-9929
<http://www.city.tanabe.lg.jp/>